

国語 第2学年 はたらく人に話を聞こう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元の中心となる学びは何か。

返し：本単元の中心は、話し手の大事なことを落とさず聞く方法である。仕事の聞き取りメモを用いて、選んだ言葉と理由を確認する。参照した指導事項と評価規準の対応は、単元の評価欄に示した。

指摘 2：本時の発問は何を考えさせるのか。

返し：発問は「仕事について何を聞くと詳しく分かるか」である。答えを聞くとさらに知りたいことができたという反応を予想するが、同じ答えを言わせることが目的ではない。選択や解釈の理由を言葉にさせる。

指摘 3：どんな誤解を予想し、どう手当てするか。

返し：予想する難しさは、質問を読み上げることに集中して答えを聞かないことである。質問欄と理解できたことの欄を分け、短い聞き取り練習をする。援助後にも同じ課題に戻り、自分で判断できた点を確認する。

指摘 4：何を記録に残せば評価できるか。

返し：発言・聞き手の応答・聞き取りや話し方の記録を評価資料にする。働く人への質問を準備し、答えの大事な言葉をメモして聞き直しているかを、目標と同じ観点で判断する。提出したかだけでは判定しない。

指摘 5：意見が異なる場合は、どちらを正解にするか。

返し：表記や辞書の意味は確かな見本に戻る。解釈や表現は根拠と目的に照らして検討する。友達と異なる答えでも、その理由を説明できる場合は並べて扱う。

指摘 6：活動に参加しにくい児童への配慮はどうするか。

返し：教材の拡大や教師の読み上げを用意し、口頭、指さし、短い記述などで考えを表せるようにする。学習指導要領の第3の1(9)に従う。援助を受けたこと自体を評価を下げる理由にしない。

指摘 7：主体的に学習に取り組む態度は本時だけで決めるか。

返し：学年の目標(3)に従い、試行と見直しの記録を単元中に集める。発言数や教師への従順さだけでは判断しない。

指摘 8：時数と活動の配当は何を根拠にしたか。

返し：総時数は東京書籍公式単元一覧に記載された4時間である。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学級の実態に合わせて調整する。

指摘 9：端末がなくても実施できるか。

返し：学習の記録は紙で作れる。端末は拡大表示や修正前後の比較など必要な用途に絞る。操作の巧拙は国語の評価に含めない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

